

山都町の魅力ポイント ■面積 544.67 km² ■人口 約1.3万人 ■指定地域 過疎、振興山村等

■ 山都町独自の文化に触れる観光スポット

- ・五穀豊穡願いを込めて、約260年の歴史を持つ「八朔祭」
- ・白糸台地に水を送る「国宝 通潤橋」
- ・九州で唯一の人形浄瑠璃が楽しめる場所「道の駅 清和文楽邑」



竹、杉、すすき、松かさ等の自然の材料を使って作る、町を練り歩く「大造り物」



国宝 通潤橋の放水

■ 有機農業全国No.1のまち

- ・50年以上前から有機農業に取り組み、有機JAS認証事業者数は全国最多
- ・冷涼な気候を活かし、水稻や夏秋野菜（トマト、キャベツ等）を中心に生産
- ・令和4年には「有機の学校」を開校！



通潤橋へ水を送る円形分水

■ 九州脊梁山地がもたらす自然

- ・山都町内に数ある滝の中で最大級の滝「五老ヶ滝」
- ・高さ200mの絶壁が10 km以上続く「蘇陽峡」
- ・溪谷の絶景を体感できる「鮎の瀬大橋」



五老ヶ滝



鮎の瀬大橋

山都町の課題

■ 政策分野 農業振興・都市計画整備

■ 鳥獣被害対策について

- 計画以上の捕獲頭数への助成金や防止対策費を多額の町費で賄っており、年々増加傾向である。
- 山都町の捕獲頭数が町で唯一のジビエ工房やまとでの処理可能頭数の上限を迎えている。
- 高齢化により罠の見回りが適切に行われていないため、捕獲から止め刺しまでに時間がかかり、ジビエとして利用できない場合がある。
- 中山間地での罠の見回り・捕獲に効果的なICT機器の決め手がない。

■ 住環境の整備について

人口減少が急速に進んでおり、移住定住対策の一環として学校跡地を含む町有地（学校跡地）を活用した宅地整備を計画しているが、立地利便性、残存物の解体・撤去費用が重しとなり計画が進んでいない。

応援隊の活動報告

これまでの活動

- 月に1回程度のWEB会議を実施し、現場における課題・問題意識の把握を実施。活用できそうな補助金・制度を紹介。
- 令和7年9月に現地を訪問し、町のジビエ処理施設、移住者を対象とした住宅、圃場等を見学し、町長との意見交換、施設担当者、移住者、有機農業の学校の講師との意見交換を実施。
- 10月には鳥獣被害担当者を交え、ICT機器の選定やと体処理の方法について意見交換及び情報提供。
- ICT機器の他市町村での優良事例の共有、環境影響評価の必要性を踏まえと体処理の手法としてコンポストを紹介。

今後の方針

- 引き続きヒアリングを実施し、各地の自治体の事例を紹介するとともに、活用できそうな制度・補助金について情報提供。
- 農水省×国交省で連携できる施策を提案できるよう検討。